
天使

死場狩鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使

【Nコード】

N0136R

【作者名】

死場狩鬼

【あらすじ】

翼の汚れた天使は天へ上ることができなくなってしまった。

そんな天使を助けたのは今日が命日になるはずで自分がその魂をもちかえるはずだったおとこだった!?

そんなこんなで始まる天使と一人の男との禁断の恋愛ストーリーが始まる!・・・かも

翼が汚れてしまった天使

俺は天界から落ちてしまった。

翼が汚れてしまった天使

理由は簡単だ、「羽が汚れてしまったからだ」
天使の仕事は地上の人間の手伝いをする事、
天使にも生まれついた家によって仕事は様々だ
俺の仕事はヒトの死後、魂を天へ持ち帰り大天使様たちの所へ持つ
ていくの使命、そして大天使様たちは天国と地獄のどちらに行くの
か判決を下す。

その工作中、俺の翼は白から黒に急に変わり羽が重くなり地上にお
ちてしまったのだ。

ヒトの作りだした汚染された外気に長いこと触れていたせいなのだ
ろう。

と、俺は冷たいコンクリートの上で冷静にそんなことを考えていた。

俺は急に腕を掴まれ狭い路地に連れ込まれた。

周りを見渡すといかにも危ない連中と言わんばかりの男たちが何か
話しながら近づく。

そいつらの一人が俺の服に手をかけてきた。

逃げようにも羽は石像の彫刻のように固まり体の自由も聞かないと
言うのにも関わらず男が乗っかってきたのだ。

口は布でふさがれ手足も拘束されている。

「こいつ、人間じゃあねえなあ」

「ああ、売り飛ばす前に遊ぶのが俺達流だ」

「つかまっちまったのが運のつきだなあwww」

「それにしても、きれいな肌だなあ・・・キヒヒ」

不気味な声で俺を見る奴らの顔は、化け物にしか見えなかった・・・。

(くそ！絶対こいつら地獄へ落とす！！！！)

そうこう考えている間にも男たちは天使の衣服を引き裂き身動きが取れない状態になっていった。

生まれて初めての恐怖におびえ俺の体は^{すく}竦みあがっていた。

男たちの手は腿に触れ、首に触れ、口を覆っていた布を取り唇を塞いだ。

声にならない叫びをあげた。

そんな時だった。

急に視界が開けた。

が俺は意識を失い何があつたかは分からない。

ただ次に目が覚めた時に見たそいつの顔には確かに見覚えのある顔が・・・。

そいつは、

俺に任されていた任務の男だった。

「ここは……」

「ああ！気がついたか！！」

「！！！！」

「あ、大丈夫なんもしねーよ……つても信用ないかww」

（こいつ……たしか俺が今回死んだら見届ける奴だよな……）

「おーい」

「！っ……いや……なんでもない……危ないところを助けてもらったようだな……感謝する。」

天使は深く頭をさげた

「いやいやいや……俺ももつと早く駆けつけていれば服もこんなにはぼろぼろになることもなかったらうに……」

天使はそう彼が指す指の先をみた。そこには薄汚れた白い布切れのようなものがあった。

思わず天使は自分の身体を見た。

「ああ、俺の服窮屈かもしれないけど着てもらったからな……
・羽の部分が少スキついと思ったから服破って少し背中寒いと思うけど」

「いや……平気だ……が……お前……驚かないのか……俺を見て……」

「ん？ああ……空見たらなんか落ちてくる！って思って始めビびってたけどなww」

「あんたは……天子ってやつなのか？」

「ああ……しかし羽が汚れてしまつて飛べなくなつてしまつたんだ……」

「へえ〜そんなこともあるのか……」

「あ……余り見るな……こんな汚らしい翼……」

「すげーきれいな羽だな！」

「んな！！・・・そんなわけないだろう！こんなに黒く荒んだ色！」

「俺は少なくともその羽好きだぞ！ってか天使のくせに結構言葉使
いわるいんだな」

「う・・・うるさい・・・」

「まっ、飛べなくてこまってるなら帰れるまで家に住めばいいさ。」

「あ、でもちゃんとその羽しまえるならしまつてね。俺ん家狭いか
らさwwww」

「ふっ・・・ああ・・・ありがとう。」

「俺は赤岡龍之介、龍之介って呼んでくれ、お前は？」

「ル セルナス、好きに呼んでくれ」

「分かった！よろしくなル！」

「ああ、よろしく」

天使ル セルナスと呼ばれる天使はとても複雑な気持ちだった。

なぜなら、今日見届けるはずだった男は今、目の前にいる。

そして死ぬはずだった時刻に自分は地上へ落下。

本来なら車の交通事故で死ぬはずだった男の命を形はどうであれ救
つてしまった。

これは天使界における大きな罪値する。

この時天使は一生天界へと帰れる見込みは無いと確信し、地上界で
生きることを決意した。

翼が汚れてしまった天使（後書き）

ここまで読んでいただき誠にありがとうございます！

遅いUP主の小説ではありますが、ぜひ今後ともよろしくお願
い
します！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0136r/>

天使

2011年10月8日13時52分発行